

2004年7月発行



特定非営利活動法人（NPO 法人）

地域生活サポートネットほうぶ

No. 1

---

NPO 法人「地域生活サポートネットほうぶ」を設立しました！

つながりの中で暮らす

望まれた人として生きる

自分らしく生きていく

NPO法人 地域生活サポートネット“ほうぶ”は、2004年4月、社会福祉士、教師、看護師、保育士、介護支援専門員の資格をもつメンバーが中心となって設立しました。「生活」の視点で、地域に暮らす方々に寄り添い、その中で、それぞれの専門性をいかしていきたいと考えています。旭区を中心に、その周辺地域も対象として、地域密着の活動を行なっています。

誰もが、希望をもって暮らすことのできる地域社会、誰もが望まれた人として生きることのできる地域社会をめざして、あなたとともに考え行動します。

さまざまな団体や個人とつながり、福祉・医療・教育とのネットワークをつくりながら、1人でも多くの方が、地域でより豊かな生活を営むことができるようサポートします。



5月15日(土)に設立集会を行ないました。地域にお住まい、あるいは、働いておいでのさまざまな立場の方35名とボランティア14名が、ご参加くださいました。地域のみなさんの声を聴かせていただき、思いを受けとめることを私たちの活動のスタートと致しました。今後、「ひとりひとりの思い」と「人と人とのつながり」を大切にしたい活動を行なっていきたいと思っております。

どうぞ、よろしく願い申し上げます。

代表理事 向井裕子

活動内容については、リーフレットをご参照ください。

詳しいことを知りたい方、活動に関心を持たれた方は、ぜひご連絡ください。

## ＜設立記念講演会レポート＞

# 出合い つながり 夢を語ろう

日時 2004年5月15日（土）午後1時30分～4時

場所 旭区在宅サービスセンター

（後援：旭区社会福祉協議会、生江人権協会、両国人権協会）

### I 開会挨拶（概略）

向井裕子（“ほうぶ”代表理事、社会福祉士）

重度の障害をもつ我が子を育てる中から、障害や疾病の有無に関わらず、「自分」の暮らし方や生き方は、「自分自身」が決めるということを感じてきました。地域福祉に対しても、同じことを感じています。地域福祉は、専門家が決めることではなく、行政だけで作られるものでもなく、地域に住んでいらっしゃる方々が、暮らしよい地域とはどんな地域なのか、どんな地域にしたいのかを主体的に決めて、創っていくものだと思います。

私たち、「地域生活サポートネット“ほうぶ”」は、地域にお住まいの方々と一緒に、笑ったり泣いたり怒ったりしながら、みなさんと共に考え活動したいと思っています。ですから、その出発点として、みなさんの声を聴かせていただきたいと考え、この設立記念講演会を開催致しました。講演で元気になって、そして、みなさんの夢を語り合ってください。

### II 講演「新しい市民社会への可能性を描く」（概略）

新崎国広氏（“ほうぶ”監事、大阪教育大学助教授、社会福祉士）

#### “出合い”からはじまる

今回の設立記念集会のテーマが「出合い つながり 夢を語ろう」であることから、皆さんの思いを分かち合うきっかけにこの講演がなれば嬉しいです。

私は、教職に就く前に肢体不自由児施設で22年間ソーシャルワーカーをしていました。私は、そこでの多くの出合いの中から人間の尊厳や人とのかかわり（つながり）の大切さを学びました。

障害をもつ子ども達と専門職が、施設の中で関わることはもちろん大切なことです。しかし、彼らはいつまでも施設や家族の中だけで生活していくのではありません。彼らが、社会に出て行く時が必ず訪れます。そんな時、彼らが少しでもスムーズに社会参加できる状況を創り出すためには、社会の意識を変えることが必要性であり、それには専門職だけの力の限界を感じ、ボランティアの重要性を感じました。

「出合い」って本当に不思議だし、大切ですね。一番前に座ってくれている彼とは彼が小4の時に施設で出会いました。向井さんとの出会いもたまたまの出会い。向井さんものんちゃん（娘さん）を育てているうちに専門職の役割に疑問を感じ、その疑問から自ら社会福祉を学びたい、問題を解

決したいと思ったとのこと。このようにのんちゃんが生まれたことが行動の原点です。いろんな出会いから共感の輪は広がっていきます。今日の話も、一人ひとりの気づきから全ての輪が広がり、つながっていくということをお話したいと思います。

#### ボランティア活動の4つの視点

ボランティアは、社会的な問題や課題を自分のことのように感じ、心の中から湧き出てくる想いを主体的に行動していく人です。

私はボランティア活動や市民活動には4つの視点が必要と考えています。

まず①「存在するということの大切さ」という視点です。私が肢体不自由児施設に就職して子どもたちとはじめて出会った時、それまで彼らと仲良くやっていけるかなと頭で考え不安になっていました。前の日も眠れなかったほどです。しかし、その不安は、私の自己紹介の時、車椅子の男の子が叫んだ「あっ、お前デメキンや」という一言で消えました。私は小学校の六年間「デメキン」と言われていました。中学校になってから言われなくなって忘れていました。それが、その当時と同じ年代の子どもたちに同じあだ名を呼ばれたことで肩の力が抜けたと同時に、頭をガツンと打たれた思いでした。彼の一言は、一人ひとりの感じる力は、障害のあるなしにかかわらず同じなのだという大切なことを気づかせてくれました。ノーマライゼーションという言葉は頭ではわかってはいたけれども、心ではわかっていなかったのだと感じました。いろんな立場の人も、もっと幸せに暮らしたいという気持ちは同じです。一人ひとりみんな違うけれどベースは同じ。一人ひとり感じ考えということ大切にしたいという思いからボランティアを始めてもらいたいと思います。

一人ひとりの夢を実現させる社会は素敵です。一番前の席に座っている彼は重度の身体障害をもちながら自立生活をしています。彼は、16年間施設での生活をしていました。施設での生活は悪いわけではないのです。24時間サービスを受けることができます。しかし、一人ひとりのニーズを実現することは難しい。彼の友人が自立生活支援センターを設立しました。その友人の支援と彼の思いで自立生活が実現しました。彼はその夢を実現するのに16年間かかりました。専門職の助けではなく、友達の支援で実現したのです。専門職は、いろんな場面でサポートをしてくれるものです。でも、専門職だけでは無理な場面もあります。一人ひとりの提案で、自分たちができることを作っていくことが大切だと思います。今日彼が来てくれたことは、そういうメッセージなのかなと思っています。皆さんにもそんなパワーがあります。

日本の場合、公的な制度で福祉を決めていくということが続いてきたので、福祉に対して無関心が起こりました。専門職だけが関わったらよいという風潮です。しかし、公的なサービスでは不十分な面が数多く存在します。その間をつなぎ、自分の思いを行動に起こしていくのがボランティアです。地域福祉を提唱した岡村重夫氏は法律と制度で枠組みを作っていく

部分(制度による社会福祉)と、制度ではカバーできない柔らかい部分(自発的社会福祉)があるとしました。ホームヘルパーにしても、昔は高齢者のみの制度であり、障害児者にはありませんでした。そういうことがおかしいなという思いから新しい制度を作っていこうと提案していくことが、市民活動・NPOの役割です。ボランティアは、その人がその場にいるということからスタートします。出会いを通して課題に気づく。心で感じた時からスタートする。それが大切だと思います。

②の視点は「人間としての肯定的理解を持つ」という視点です。すべての人間は本来「自分で問題を解決する力」を持っています。困難な状況に陥ってその力を発揮できない時、周りのサポートによってその力が発揮できるようになるということを理解しておく必要があります。

③の視点は「自立支援をサポートする」ということです。身辺的自立だけが自立ではありません。必要なサポートを受けても自分自身の夢を実現できることも自立です。こういった自立を支援することもボランティアの役割です。

④の視点は「社会関係障害があることを認め、打破するために発信する」という視点です。障害を個人の能力だけで判断するのではなく、社会との関係からとらえる視点が必要です。大切なことは排除をしないということ、排除をおかしいと動いていこうという視点を持つことが大切です。できないことを認めながら、できることに関わっていくことが市民活動・ボランティア活動の大切なことだと思います。自分はこんな思いを持っているのだと発信する、それを基に情報がもらえネットワークが広がるのだと思います。

#### 対人援助に携わる者として

今までお話ししたことについて「デメキンが言いましたゲーム」を通して、対人援助にかかわる大切な三つのことを学びます。

(ゲームをしながら)

1つ目の学びは「笑顔の大切さ」です。知識も技術も大切ですが、温かく受けとめるという「ニコッ」とした笑顔。関わりたいという気持ちが最も大切なことだと思います。

2つ目の学びは「失敗を恐れない」ことです。ボランティアをする上では許される失敗と許されない失敗があります。許されない失敗は三つあり、①上から下に見下げるように関わっていくこと。②できもしない約束をすること。③守秘義務を破ること。だと思います。許される失敗は、一生懸命にかかわっておこる失敗。真剣に考え、試行錯誤をくりかえす中で、ボランティアも成長していくのです。

3つ目の学びは隣同士で手をつなぐ、これがネットワークだと思います。手をつなぐことで、間違いを防いだり、手をつなぐことで自分だけでは支えられない時に支えあっていくこともできるということ覚えておいていただきたいと思います。

### ボランティア活動の5つのキーワード

最後にボランティアをする上での5つのキーワードを述べておきます。

- ① 柔軟な発想とボランタリな思い。制度の狭間をなんとかしたいという思い。
- ② 社会的連帯感の形成(ソーシャルサポートネットワークの形成)。
- ③ 上からではなく、自ら作っていくもの。
- ④ 思いを「ほうぷ」で実現していく、  
ソーシャルアクションの担い手。
- ⑤ 福祉のご意見番。もっとこういうふう  
という提案者。

このキーワードを胸にこれからの活動を担っていただければと思います。



### Ⅲ グループディスカッション

#### 「みんなで語ろう！ 私の夢、あなたの夢」

8グループに分かれ、各々の夢や“ほうぷ”に望むことを語りあって  
くグループ発表> いただきました。

困った時に気軽に相談できるところ  
同じ悩み、同じ状況にある人と出会える  
場がどこにあるかわからない。  
⇒ 共有できる場  
情報発信(知ってもらふことの大切さ)

いろいろな人と関われる活動  
経費のかからないサポート  
誰もが住みよい地域に  
高齢者や幼児と一緒に触れ合う機会

誰もが元気になれる居場所作り  
遊びの会、バンド、コンサートに行く、  
写生、野球、展覧会、自然に触れる、  
学校のあり方にくいこもう(いろいろな人)  
以上のように、遊びを通していろいろなこと  
をやっていこう。難しい話をしなくても自然  
のうちにわかりあえる。

いろいろな形のサービス  
パソコンと一緒に、高齢者のメイクや誕生  
会やショッピング同行、急用の時の一  
時預かり、洋裁、外出の同行、休職中な  
どの看護師さんによるボランティア

自分の興味のあることで(例 子育て)。  
福祉の話を知りたい。  
地域の人と「ちょっと一緒にランチ」  
のように気軽に話したい。  
フリースペース(子どもが行きたい時に  
いける場所)が欲しい。

ボランティア(無償)、ヘルパー(有償)と  
いろいろな形があるけれど、基盤(思い)  
は同じーボランティアは自由、ヘル  
パーには限界も。ボランティアだから  
こそ限られる部分もある。

子育てに関する相談ができるといい。  
医療的ケアのサポートネットワークが  
作り出せたらいい。  
総合相談の窓口になって欲しい。

不登校の子どもが外に出るきっかけ。  
(「自分から」でなければダメ)  
子どものことを一緒に考えて欲しい。  
(「場所」を作って欲しい)  
情報提供ー「ほうぷ」の活動を広く  
知ってもらふ。

#### IV 閉会挨拶（概略）

鳥海直美（“ほうぶ” 副代表理事、千里金蘭大学 講師、社会福祉士）

“ほうぶ”のロゴマークは、「障害は個性だ」という名言を発し障害を持つ人の自立を支援してきた牧ローニさんのデザイン会社「おぼけ箱」で作っていただきました。このロゴを向井さんは、一番左端が種、真ん中が芽、一番右端が花だと言いました。私たちだけでは育てられないから、みんなの思いを受け取りながら、根を張って花を咲かせていけたら良いねと。それに対し、私は、「ほ→つるつるの人」「う→でこぼこの人」「ぷ→ぎざぎざの人」、いろんな人が出会って生きづらさをケアしていく、そういう出会い作りの場に“ほうぶ”がなりたいと。このロゴが表すように、“ほうぶ”は、いろんな方々と一緒に、ひとりひとりの思いに寄り添い、いろんな形になりながら、この芽を育てていきたいと思います。

#### V アンケート回答の紹介

##### 1. 講演「新しい市民社会への可能性を描く」についての感想

- ・人との関わり大切さを再認識
- ・生（なま）の音が聞けた
- ・多くの人と交流できた
- ・様々な情報が取り込めた
- ・地域での連携が大きな可能性となることが分かった
- ・ネットワーク充実のための「出目金」（ゲーム）の3つの発想が参考になった
- ・自分自身のスタッフ指導に役立てたい
- ・「やってみること」「伝えてみることを実践したいと感じた
- ・分かっているつもりで忘れていたことを再認識
- ・頭の中での漠然とした考えが鮮明になった
- ・ひとりひとりの頑張り支えあい、そしてつながることの大切さを実感
- ・分からないで終わらせるのではなく何でも口に出してみる大切さを実感
- ・みんなが大事ということを認識
- ・旧共同体社会が崩壊の中で地域社会再生の新ネットワーク作りの必要性を実感
- ・行政指導より市民主導の時代を実感
- ・制度の可能性をカバーする可能性が生まれてきた

##### 2. ディスカッション「みんなで語ろう！私の夢、あなたの夢」の感想

- ・みんなの夢が聞けて良かった
- ・自分が誰かの支えになりたいと思った
- ・不登校児に関する意見が聞けて良かった
- ・学生さんの熱意が聞けて心強かった
- ・新しい発見ができそう
- ・立場や年齢は違っても求めているものは同じと感じた
- ・多くの人の活動が自分自身の参考になった
- ・みんなが得意なことを少しずつ分け合えたら何かできそうと感じた
- ・いろんな悩みを相談できる場作りの必要性を改めて感じた
- ・人との関わりの中で「笑顔」の大切さ、そこから夢が広がると感じた
- ・自分が生活する視点で見て幸せに思える環境を作りたいという声に共感

### 3. 「ほうぶ」に望むこと

- ・ボランティアに参加したい
- ・情報発信基地・総合窓口機能
- ・気軽にアクセスできる場
- ・自分自身の活動に役立てる場
- ・障害児の放課後活動の場
- ・野外活動の企画
- ・世代を超えた交流の場
- ・ホッとできる場
- ・24時間体制の機関
- ・成年後見や第3者評価の機能

### 4. 今日のボランティア活動に参加しての感想（学生ボランティアから）

- ・勉強になった
- ・できることからやってみたいという気持ちになった
- ・様々な人と話げできた
- ・地域を良くしようとする熱意を肌で感じた
- ・自分自身パワーをもらった
- ・どんなニーズがあるのかよく分かった
- ・引き続き参加したい

アンケート結果からも、さまざまな役割が“ほうぶ”に期待されていることがわかりました。皆さんの夢を実現できる地域の拠点になりたいと思います。

## <活動報告>（5月・6月）

（区在）：旭区在宅サービスセンター

- 5月 7日 旭区医療的ケアネットワーク「こころ」定例会（区在）
- 10日 脳血管障害当事者会「あさひの会」定例会（区在）
- 15日 「ほうぶ」設立記念講演会！（区在）
- 16日 第1回 音楽広場の開催（城北市民学習センター）
- 24日 旭区子育てネットワーク「きしゃぽっぽ」定例会（区在）
- 26日 草の根ネットワーク「ねっこ」定例会（区在）
- 30日 南海福祉専門学校プライマリー講座  
社会福祉士を目指す通信制の学生に対し、社会福祉士が地域で果たす役割について話し、「ほうぶ」を紹介
- 6月 4日 旭区医療的ケアネットワーク「こころ」定例会（区在）
- 8日 障害児と親のサークル「たんぽぽ倶楽部」運営委員会（区在）
- 14日 脳血管障害当事者会「あさひの会」定例会（区在）
- 18日 不登校の親の会「サークル虹」定例会（トモノス旭）
- 20日 第2回 音楽広場の開催（城北市民学習センター）
- 21日 旭区子育てネットワーク「きしゃぽっぽ」定例会（区在）
- 23日 草の根ネットワーク「ねっこ」定例会（区在）

#### （編集後記）

設立集会には、たくさんの方々が集まってくれました。ありがとうございます。グループディスカッションでは、活発な意見交換がありました。改めて、世代を超え、さまざまな状況にある方々の集まる場の必要性を実感した次第です。同時に、みなさんの思いをお聴きして、取り組むべきものの多さを痛感いたしました。みなさんと一緒に、1つ1つ作り上げていきたいと思っております。今後とも「ほうぶ」をよろしく願います。（よ）